

Biography

ベルリンから全国各地へレジデンス先が制作拠点

【山下麻衣】
1976
千葉県に生まれる。

2009
東京芸術大学大学院美術研究科修士後期課程油画専攻修了。

【小林直人】
1974
千葉県に生まれる。

2002
東京芸術大学大学院美術研究科修士課程油画専攻修了。

最近の海外体験

2004
パウハウス造形芸術大学大学院(ワイマール、ドイツ)に2人とも短期留学。

2005
ベルリン芸術大学に研究生として留学。

2006
韓国前現代文化財団、新村国際文化財団の助成を受け、ケムンストラートアートエAKKU(ウスター、スイス)にてレジデンス。

2007
フェリス学院ビジュアルコミュニケーションデザイン

【ストラトハウス(エッケンフェルデ、ドイツ)にてレジデンス。】

2008
ベルリンに滞在。タクロウソメヤコンテナギャラリー(千葉)にて個展『The Small Mountain』。

2009
ケムンストラートキヤザーヴォルブスフェーデ(ドイツ)にてレジデンス。ライブアーツ・インターナショナル・アート・プログラム(ドイツ)にてレジデンス。
『材料組成展』を得て『いちトリエンナーレ2010』に参加。
個展『GOING MAINSTREAM』(ケムン

ストラトハウス(エッケンフェルデ、ドイツ)にてレジデンス。

2011
『目コハマトリエンナーレ2011』参加。タクロウソメヤコンテナギャラリー(東京)にて個展『The Four Souvenirs and The Book』。
『野村真由美美術財団助成』(国際交流)を得て個展『Adventure, Courage, Love and Friendship』(kunst+franzラインツェンゲン、ドイツ)開催。
『野村真由美美術財団助成』(国際交流)を得て、文化庁海外派遣事業海外研修制度奨励金として、NYの代表的レジデンス、ISCP(インターナショナル・スチューディオ・セントラル・プログラム)に滞在。



左—1000WAVES 2007 HDV 50分15秒 ワンストハレリンゲンでの展示風景
右—GOING MAINSTREAM 2010 2チャンネルビデオ、ポト
協力—いちトリエンナーレ

●アメリカ、NYの代表的レジデンス



ニューヨークのISCPのアトリエ風景

「いいレジデンスの条件とは」
— スイスの次に行ったドイツのエックエンフェルデや、ヴォルフスヴェーグなどを、いずれも地方部

みようか、と思つたのが始まりですね。
最初のレジデンス先はどうやって選んだのですか？
小林 どういったレジデンスが自分に向いているかわからなかったため、art+artiveなどのサイトを見ていくつか応募してみました。たまたま通つたのがスイス、ウスターのAKKUでした。市が運営しているような施設で、1年間、80平米の広いスタジオを手を替え、アーティストは僕たち1組だけ、じっくり自分と向き合ひたいという環境だと思ひます。
小林 たた、ベルリンやニューヨークなど都市型のレジデンスは、滞在費やスタジオ代などを払う必要がある場合が多く、国の助成金を出るのが条件のときもある。
山下 あとは自分の好きな作家のいる国にまずは行ってみたいというのでもいいと思ひます。自分たちが日本にいるときから、スイスやドイツ、フランスやイタリアやドイツのクリスチヤン・ヤンコフスキーなどの作家が好きでしたしね。

時間でした。

山下 日本のレジデンスと違うのは、ヨーロッパなど海外の場合、地域交流や成果発表といった義務や条件が基本的にないところが多いですね。生活費が出るので、アーティストが制作に専念しやすい環境だと思ひます。
小林 レジデンスに行こうと思つたきっかけは？
山下 大学院の交換プログラムで、ワイマールに行ったとき、ベルリン芸術大学で教鞭をとっていたスタニス・ダグラスと出会い、同学に留学しました。ベルリンでプロのアーティストとして生きていく人と多く触れ合ううちに、作家としての自覚も出てきて、ちよつと動いて

Case 3

レジデンス滞在を制作に生かす

山下麻衣 + 小林直人

“場所とアイデアがうまくリンクしたときに作品になる。”
— Mai Yamashita



“忘れていたことに気づくために、レジデンスをしている。”
— Naoto Kobayashi

タクロウソメヤコンテナギャラリーアートでの個展『The Four Souvenirs and The Book』での展示作品(Rubbing a Camel) (2010)の前で

ド イフ、スイス、アメリカへと全国各地のレジデンスに滞在しながら作品をつくり続けているアーティスト・ユニツト、山下麻衣と小林直人。高校時代に出会い、アイデアを出し合いながら協働して作品をつくり始めたのは2000年頃から。それ以降レジデンス先の環境の中で、時間をかけ、ものごとの変化のプロセスを映像にあらためた作品を手がけている。これまでのレジデンス経験から編み出した、独自の制作スタイルについて聞いた。

